

ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任

2022年度の担当科目一覧表

科目区分 (教養/専門/教職)	科目名	種別 (必修/選択)	開講時期	受講者数
専門	ウィンドアンサンブル1・3・専	選択	1,2年 専 前期	26名
専門	ウィンドアンサンブル2・4	選択	1,2年 後期	19名
専門	専修実技クラリネット	選択	1,2年 通年	3名
専門	ソルフェージュ1・2	必修	1,2年 通年	7名
教養	音楽に親しむ	選択	1,2年 前期	50名
専門	室内楽	必修	専 通年	1名
専門	学内・学外演奏2	選択	2年 通年	23名
専門	総合芸術論	必修	専 前期	2名

2. 教育の理念

音楽科では演奏者を育てることを目標としている。1曲を演奏出来るようになるまでには、音楽の基礎知識、基礎技術、専門知識や専門技術、又、多くの練習時間など様々な事が必要とされるが、やはり一社会人としての人間性が一番重要であると考えている。

音楽を通して人を思いやる気持ち、人と協力して作り上げる楽しさ、一つの事を最後までやり遂げる力など、人間性豊かな情緒を持った一社会人として育てることが、教育目標である。

3. 教育の方法

器楽実技レッスン（専修実技、ウィンドアンサンブル、室内楽）においては、実際に音を出させ音の出し方、練習方法、楽曲についての説明や技術的な問題点など詳しく口頭で指導（アクティブラーニング）している。又、ウィンドアンサンブル・室内楽のレッスンでは学生の自主性を育てる上でも、選曲・アンサンブルの組み合わせなどを学生主体の選曲にしている。

又、音楽に親しむの講義においては感想文を講義後に提出させ、質問事項に関しては次の講義時に口頭で回答している。

4. 教育の成果

実技では、実技試験、定期演奏会・マラソンコンサートなどの演奏会において、確実に演奏技術、音楽性が向上している成果が認められた。又、他者と協力して演奏する事でコミュニケーションや自主性が生まれてきている。

講義では感想文を通して音楽を感じ取る感性が身に付いていると確認できた。

5. 今後の目標

自主性を持って様々な課題に取り組めるように、さらに具体的な方法を検討したい。

6. 根拠資料

- シラバス
- 授業資料
- 授業評価アンケート結果
- 授業改善計画書
- その他（感想文）